

薬用植物園かわらばん

皆さ〜んちょっと覗いてみませんか？
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2019年
5月10日
第64号

ジギタリス（ゴマノハグサ科）

園内第一圃場で、紅紫色の花が見られます。江戸時代鑑賞用としてヨーロッパから渡来した多年草です。英名のフォクスグローブ（和名；キツネノテブクロ）の名は、一説に鶏を襲う狐が鶏舎の周りをうろつくとその足跡から人間が狐狩りを行い、それを救うため、妖精がこの花を送ったという話もあります。

ジギタリスの葉は、西洋医学で生薬として使用されていましたが、現在の日本薬局方からは削除され、強心薬ジギトキシンおよびその誘導体などの医薬品製造原料となっています。それらはいずれも作用が強く、劇薬に指定されている心不全治療薬です。植物園や公園などで鑑賞用にも植栽されていますが、絶対に素人は使用してはいけません！特に芽生えの時にヒレハリソウ（コンフリー）と間違えて食べてしまった食中毒事故が以前にありました。余談ですが、コンフリーにも肝障害が認められているため、食品には適しません。



シラン（ラン科）

第三圃場で紅紫色の花が勢いよく咲いているのが見られます。日本、東アジアの川べりや岩上に自生していると言われますが、残念ながら見たことがなく、野生のものは準絶滅危惧種に指定されています。日当たりが好きな丈夫なラン科の植物で、最近は鑑賞用に綺麗な交雑種が出回っています。根茎（偽鱗茎）が白及（びやくきゅう）という生薬となり、日本の漢方薬としては使用されませんが、民間では止血、鎮痛、排膿、抗潰瘍を目的とした内・外用薬として用いられます。

今、こんな草木が楽しめます！！